

AIとどう向き合うか

ChatGPTをはじめとする生成AIの登場により、AIは急速に私たちの日常に染み出し、学びも仕事も大きく変わろうとしています。「仕事が代替される」「シンギュラリティが到来する」といった言葉も耳にしますが、まだどこか実感が無い方も多いのではないのでしょうか。

一方でこのページの調査結果にもあるように、高校生にとってAIは既に身近な存在で、当たり前を使う未来が予想されます。そんな未来に向けて、学校ができることは一体何なのでしょう。

専門家ですら「霧の中を歩いているようだ」と表現する昨今のAIの世界。「AIとどう向き合っていくのか」

本特集をきっかけに、この問いを一緒に考えていただけたら幸いです。

＼ CHECK! ／

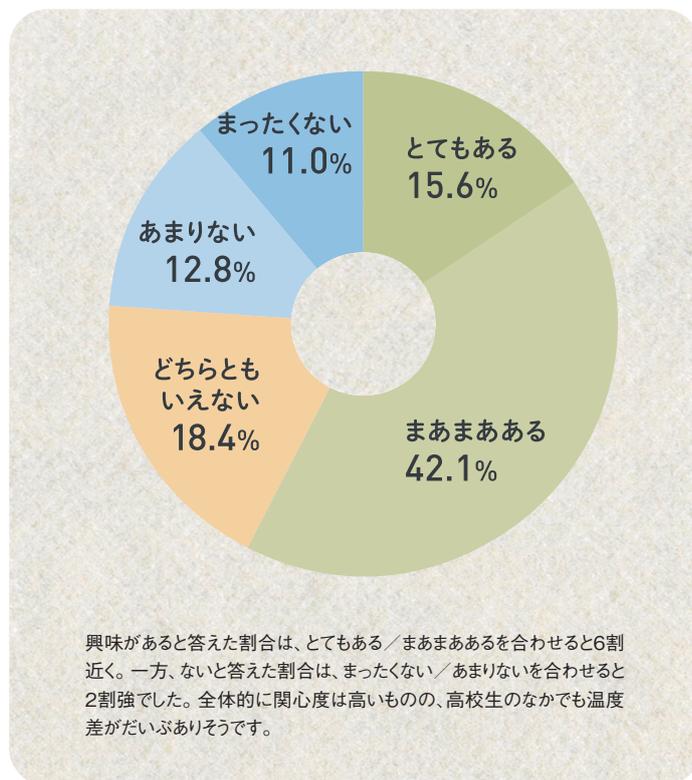
AIと高校生のリアル

編集部では、全国の高校生を対象にAIに関するWebアンケート調査を行いました。今の高校生にとって、AIはどのような存在なのか。調査結果から見てきたことをご紹介します。

Q1

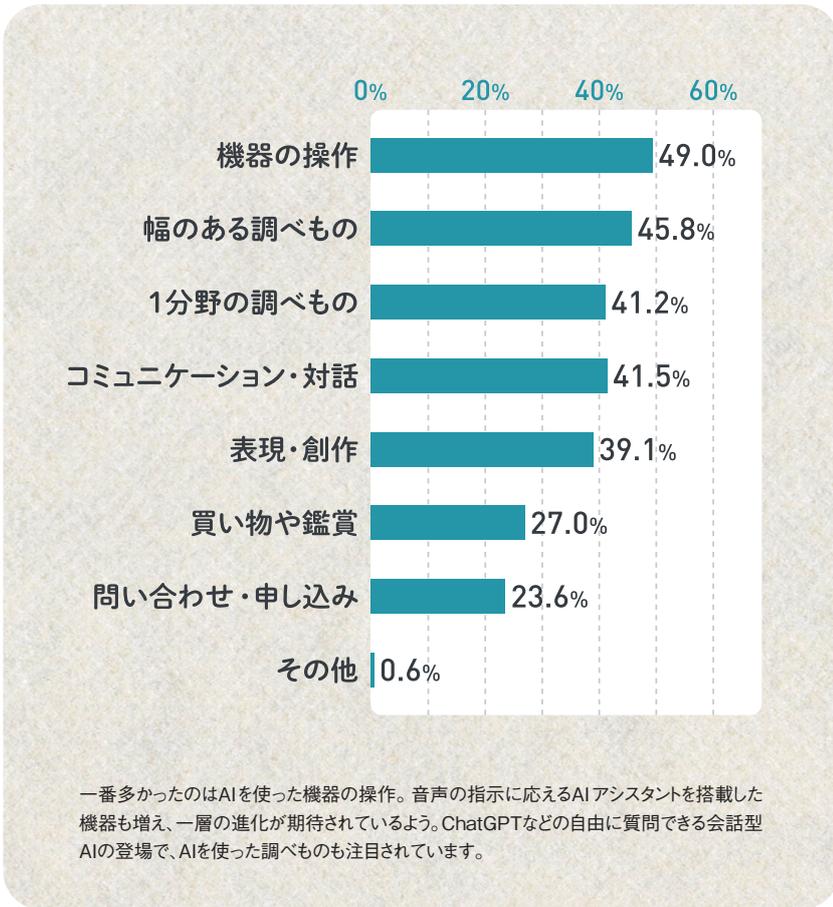
AIに興味・関心はある？

高校1～3年生3,663人回答*



*キャリアガイダンス編集部「高校生のAIへの関心・活用状況に関するアンケート」(2024年)





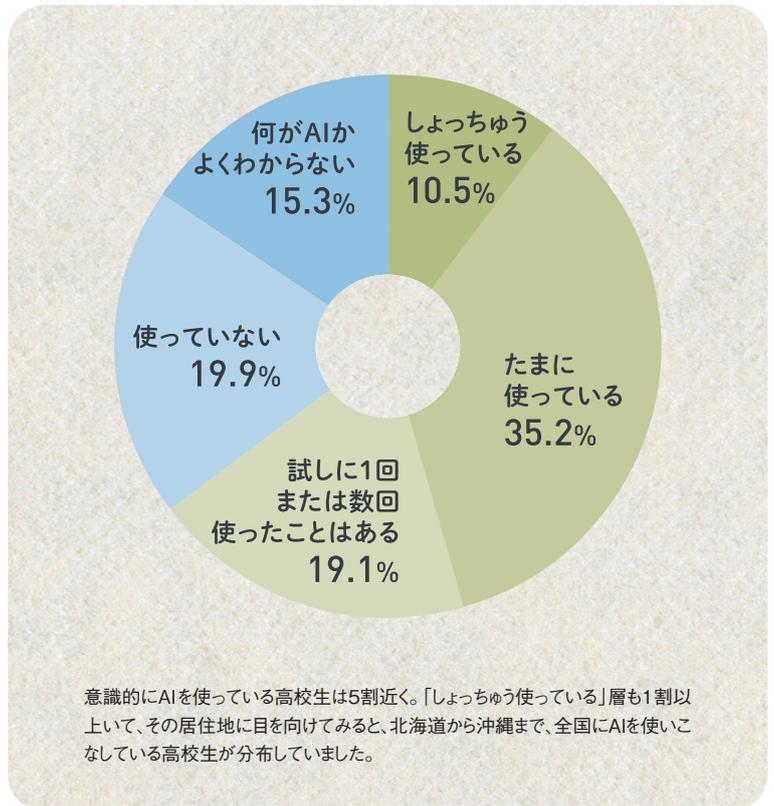
Q2

どんなAIに興味がある？

Q1であると答えた2,115人回答、複数回答可

※Q2の各項目の具体例は次の通り

- 機器の操作
… 音声指示できるAIアシスタント等
- 幅のある調べもの
… ChatGPT等の会話型AI等
- 1分野の調べもの
… 自動翻訳AI、画像解析AI等
- コミュニケーション・対話
… エンタメ系自動応答チャット、会話型AI等
- 表現・創作
… 画像加工AI、作曲AI等
- 買い物や鑑賞
… 好みに合いそうなものを薦めるAIレコメンド等
- 問い合わせ・申し込み
… チケット購入等の自動応答チャット等



Q3

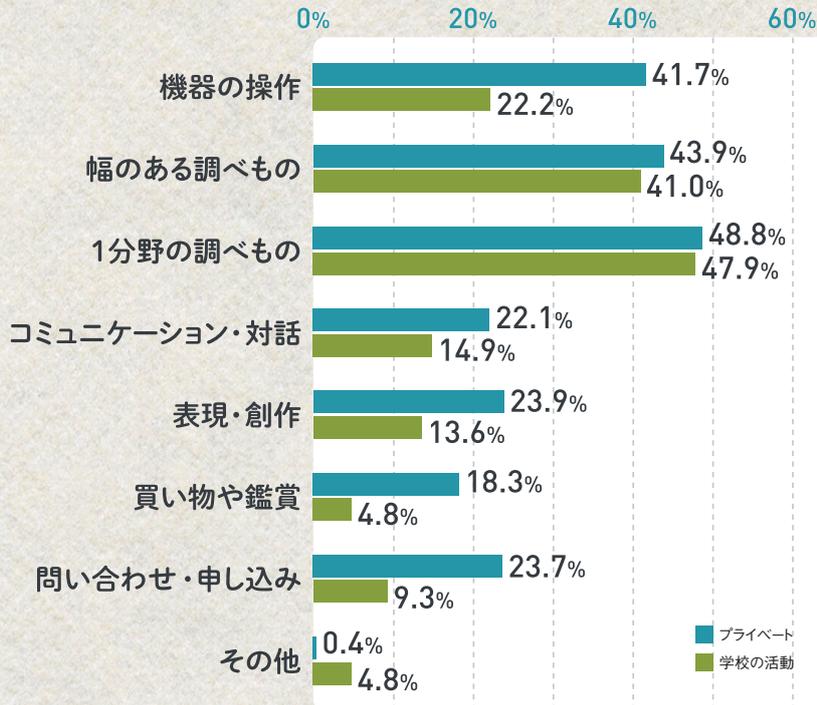
意識的にAIを使ったことはある？

高校1～3年生3,663人回答



Q4

プライベート(自習含む)
および学校(授業や部活動)で
AIを使う場面は?
Q3で使っていると答えた1,677人回答、複数回答可



すでにAIを使っている高校生にとっては、AIを活用した調べものが特になじみ深いよう。また、どの分野でも、プライベートの活用のほうが学校での活用を上回っていました。今後、AIを使い慣れた生徒が「学校でもAIをもっと使いたい」と求めてくるケースがあるかもしれません。

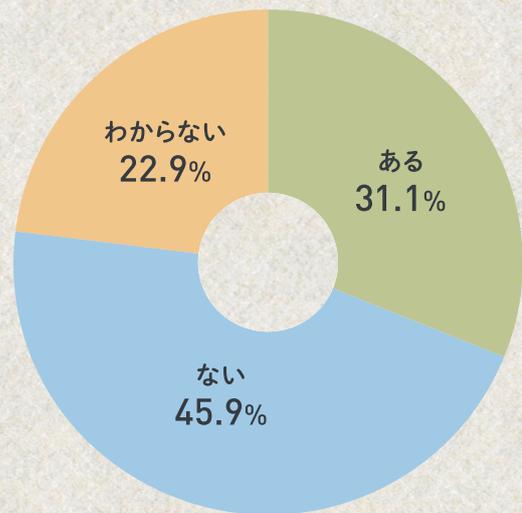
※Q4の各項目の具体例は次の通り

- 機器の操作
… 音声指示できるAIアシスタント等
- 幅のある調べもの
… ChatGPT等の会話型AI等
- 1分野の調べもの
… 自動翻訳AI、画像解析AI等
- コミュニケーション・対話
… エンタメ系自動応答チャット、会話型AI等
- 表現・創作
… 画像加工AI、作曲AI等
- 買い物や鑑賞
… 好みに合いそうなものを薦めるAIレコメンド等
- 問い合わせ・申し込み
… チケット購入等の自動応答チャット等

Q5

学校で生成AIを使ったことはある?

高校1～3年生3,663人回答



現時点で「学校の活動で生成AIを使ったことがある」と認識している高校生は、全体の3割強でした。この数値、思ったよりも多いと感じたでしょうか？ 案外まだ少ないと感じたでしょうか？



Q6

学校で生成AIを使った場面は？

Q5であると答えた1,140人回答

総合的な探究の時間などの
調べ学習

46.7%

進路検討や志望理由書作成

6.8%

課題の自己採点や添削

18.2%

面接対策(模擬面接)

4.1%

生成AIについて
使い方を学ぶ授業の実施

9.1%

部活の練習メニュー作成や
振り返り

3.0%

AIが生成した教材や
テスト問題の活用

8.6%

その他

3.5%

学校で生成AIを使った場面として抜きん出て多かったのは、探究活動などの調べ学習にAIを利用することでした。とはいえ、課題の自己採点や添削から、進路検討や面接対策、部活動への利用まで、生成AIの活用の幅は確実に広がってきています。

AI社会において必要だと思うものは？

高校1～3年生3,663人回答

Q7

	1位選択	2位選択	3位選択
AIの技術への十分な理解	36.0%	13.5%	15.6%
AIを使うリスクやメリット・デメリットの把握	21.3%	25.0%	19.6%
AIの強み×人間の強みをかけ合わせる力	14.9%	14.6%	22.1%
AIが生成した情報をどう使うか判断する力	14.4%	19.9%	23.4%
AIに適切な問いかけや指示をする力	9.2%	18.5%	9.6%
自分なりの「AIでやりたいこと」の発見	4.0%	8.4%	9.5%
その他	0.2%	0.1%	0.1%

AI社会に必要なと思うものとしては、技術の理解、リスクの把握、判断力が上位に。そこには「使い方を間違えたくない」という意識があるように思われます。一方で、AIでやりたいことなど、より能動的にAIを使うことへの意識はまだそこまで高くないよう。このことは、次ページで紹介する自由回答からも読み取れました。



Q8

AI全体のイメージは？ そう感じている理由は？

自由回答

期待

● 機械なので気楽に質問などができる
(3年生・私立)

● アシストをしてきて、新たな見解も与えてくれるパートナー。最初は翻訳や調べもので利用し、今では書いた文章の訂正や友達との遊び先もAIにお手伝いしてもらっている。ただ、自分たちの能力が下がる不安もあり、バランスを探る必要はあると思う。期待・不安まとめて未来のパートナー
(1年生・公立)

● 人間が上手く使うことで、AIの力が発揮されるものだと思う。どういうものに使うかを考えたり、ある程度のルールを設けなければ、著作権や肖像権などさまざまな問題に発展してしまう
(3年生・私立)

● 友達が作文課題などで生成AIを使うとズルしている気分になるのであまりいいイメージではない
(2年生・私立)

● AIのために仕事がなくなってしまうか不安。薬剤師はAI(または通信販売)の侵食が激しくなるのではといわれていて、薬学部ではなく医者になるために医学部を目指すことにした。進路に悩める高校生にとっては、脅威であり将来像を不安定にする原因
(2年生・公立)

● 期待。AIで学校の課題を早く終わらせられるから
(3年生・公立)

● 一回調べたことは覚えていて使えば使うほどわかりやすい
(2年生・公立)

● 面白い。自分とは違った視点から見ているから
(2年生・公立)

● 翻訳や商品紹介など便利で親しみやすいイメージがある反面、悪用されて犯罪の原因にもなりかねない。イラストを許可なしにAI学習に利用する人が現れたり、モラルが問われるものだと思う
(3年生・公立)

● 批判されるイメージで、絵とかに関してはあまり公に使ったとは言いつらい。文章系はよく使うし、そんなに言うのにも抵抗はない。まだ未完成なものもあるけど、それでもスゴイのもあるし役に立つ
(3年生・公立)

● 声優さんや絵師さんの表現を勝手に利用するAIや、ディープフェイクを補助するAIは取り締まられればいいと思う
(3年生・公立)

● 将来の仕事を担う存在。よくテレビや学校で、AIの発達で人間にできる仕事が少なくなると言われているから
(1年生・公立)

不安



Q9

自由回答

この先、AIで
やってみたいことは？思考や
調べものの
アシスト

- 作文、宿題
- 自由研究や課題研究への利用
- 旅行プランの作成
- 好みに合う家具のリストアップ
- 自分に合う勉強法／洋服／メイクなどの分析・診断
- 思い出せるのに言葉が出ない時に助けてほしい

コミュニ
ケーション

- 翻訳機能で英語圏の人や、英語圏以外の人とも話したい
- 友達のようにAIと会話をする
- いろいろな相談。人には話しにくいことをAIに聞いてほしい
- もう会えない人に会う

表現・創作・
創造

- 音楽やアニメ、小説などの共作
- 絵を描くのが苦手だけど、表現は好きなので、AIを活用して思い通りの表現ができるようになりたい
- AIに感情をもたせる

社会課題の
解決

- 温暖化防止、災害予防
- 奴隷労働などの悪いことの解消
- 渋滞・通勤ラッシュの解消
- 街の設計、政治の最適化
- 農業や運転の完全自動化
- データ分析による医療診断
- 数学の未解決問題を解く
- 動物の鳴き声の研究(感情理解)

AIの良さや危うさを日常のなかで感じている

AIのイメージとして回答が多かったのは「生活が便利で豊かになる」が「不安もある」というもの。不安としては「人間の仕事がなくなりそう」「人間の思考力が衰えそう」という声が多く、「人間の使い方次第」「モラルの問題」という意見も目につきました。

また、Q8の回答のように、それらAIのイメージは、想像以上に「日常体験を通して培われたもの」であるようです。高校生にとってAIはとくに身近なテーマなのかもしれません。

身近で不安もあるので「使い方を間違えない」ことにまず目が行くのか、「AIでやってみたいこと」の質問には「特にない」という回答も目立ちました。一方、やりたいこととして挙がった回答の中には、AIと組むから可能になりそうな発想もあり、やりたいことを自問するなかで未来の可能性が広がりそうな予感も抱かせてくれました。

期待と不安が入り交じるAIとどう向き合うか。次ページ以降で、教育、ビジネス、芸術などさまざまな現場をめぐりながら考えていきます。